

第2学年 生活科学学習指導案

ろ組 男子 17 名 女子 17 名 計 34 名

指導者 永野 優希

1 単元 見て見て 小さな生きもの

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、第1学年単元「生きものとなかよし」で、ウサギと触れ合う活動を通して、動物は生命をもつことに気付いてきている。また、第2学年単元「さんぽ」で、それぞれの季節の特徴的な生き物や植物を見つけた経験から『もっといろいろな生き物を見つけてみたい』『見つけた生き物を育ててみたい』という思いや願いをもつようになってきている。

そこで、本単元では、身近な場所に住んでいる生き物を探したり、生き物の立場に立って飼育したりする活動を通して、『学校や大学にいる生き物を探したい』『自分で育ててみたい』という思いや願いを達成していく楽しさを味わわせ、身の回りの生き物に自ら関わっていかうことをねらっている。また、生き物は自分たちと同じように生命をもち成長することや、育つ場所や種類によって世話の仕方が違うことに気付き、心を寄せながら試行錯誤して飼育を続けたり、育てた生き物のことを伝えたりする力を培おうとするものである。さらに、これまでの経験を基に、諸感覚を働かせて観察したり、自分なりに工夫して世話したりすることができるようにするとともに、これらの活動を通して、自分のよさや成長に気付かせていくこともねらっている。

なお、これらの活動は『もっと多くの生き物に出会いたい』という願いとして、夏休み以降の「さんぽ」の活動や3年生以降の理科の学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

本校や近隣の大学構内には、雑木林や池、農園などがあり、それらの場所で季節に応じた多くの生き物に出会うことができる。生き物は何か働きかければ返ってくるといった応答性があり、子どもたちにとって、この応答性が生き物に主体的・能動的に関わる原動力となる。自分で生き物を採取し飼育する活動を通して、成長を見る楽しみや思いが叶った成就感を得ることができる。また、飼育活動の中では予想もできないトラブルやハプニングが起き、活動の過程で様々な発見や疑問をもつことができる。さらに、時には生命の誕生や死と出会うこともあり、常に生き物の気持ちになって関わり、自分なりに試行錯誤して飼育する活動を通して、生命を扱うことに対する責任感が育ち、世話する生き物の変化や成長、生命の大切さに気付くことができるものである。

そこで、本単元の展開に当たっては、活動で得た気づきを広げたり深めたりしながら、自分と生き物とのつながりを実感することができるようにするために、じっくりと生き物に触れ合うことができる散歩や継続的な飼育といった体験活動と、体験活動後の活動を通して気付いたことを話し合ったり、自己の取り組みを振り返ったりする交流活動の設定を重点化していきたい。

具体的には、まず、「生きものさがしをしよう」の活動では、『生き物を見付けたい』『見つけた生き物を自分で育てたい』という思いや願いを高めるため、校内や大学で生き物を探す活動や見つけた生き物について情報交換する活動を設定し、意欲的に生き物の飼育活動に取り組めるようにする。次に、「見つけた生きものをマップにまとめよう」の活動では、生き物マップ作りを通して、生き物には適したすみかやえさがあることに気付かせていくようにする。そして、生き物探しやマップ作りで高まった思いや願いを基に「生きものをそだてよう」の活動へと展開し、自分の育てたい生き物を選択し継続して観察や世話をする活動を設定する。ここでは、諸感覚を働かせて生き物にじっくりと関わり、生き物に適したえさやすみかを考えながら自分なりに工夫し生き物の世話をすることができるようにする。その際、世話をする活動を通して生き物が生命をもち成長していることに気付き、心を寄せながら大切に飼育することができるようにする。さらに、「生きものランドをひらこう」の活動では、飼育している生き物について紹介する活動を設定し、自分なりの表現で

まとめ発表し、伝える楽しさに気付くことができるようにする。最後に「たのしかったことをふりかえろう」の活動では、生き物の成長と自分の頑張りの工夫を関連付けながら振り返らせ、自分の力で生き物を育てることができた自分自身の成長やよさに気づき、今後も身近な生き物に関わっていきたいという意欲をもたせるようにしていく。

このような活動を通して、子どもたちは、身近な自然を自分とのつながりで捉えながら、活動に対する成就感や満足感を味わうとともに、自分のよさや成長を実感し、自分にとって楽しく豊かな生活を創り出していこうとする態度を高めることができる。このような学習を積み重ねることで、身近な自然への認識を深めたり、生活上必要な習慣・技能を身に付けたりしながら、自分のよさや可能性を実感し、自信と意欲をもって主体的に学んだり生活しようとしたりしていく。

(3) 子どもの実態（対象者 ろ組 34 名、数値は延べ人数）

＜小さな生き物への興味・関心とその理由＞	
○好き(28)	○好きではない(6)
・かわいい(21)	・面白い(7)
・気持ちが悪い(4)	・怖い(1)
・汚れる(1)	
＜生き物飼育への意欲とその理由＞(複数回答)	
○飼いたい(27)	○飼いたくない(7)
・かわいい(14)	・仲良くなりたい(11)
・観察したい(2)	・めんどくさい(3)
・生き物が苦手(3)	・飼い方が分からない(1)
＜飼育経験とその生き物＞(複数回答)	
○ある(25)	○ない(9)
・ペット(イヌ、ネコ)(13)	・カブトムシ(11)
・金魚、メダカ(9)	・クワガタ(6)
・カメ(2)	・バッタ(5)
・カマキリ(3)	・ダンゴムシ(3)
・エビ、カエル、オタマジャクシ、チョウ(1)	
＜必要な世話＞(複数回答)	
・えさやり(28)	・水の入れ替え(10)
・そうじ(9)	・すみかを作る(6)
・遊び場を作る(2)	・分からない(2)
・様子をよく観察する(1)	
＜困ったときにどうするか＞(複数回答)	
・本や図鑑で調べる(24)	・家族に聞く(14)
・よく考える(12)	・インターネットで調べる(11)
・友達や先生に聞く(6)	・詳しい人に聞く(3)
＜気付いたことをどうしたいか＞(複数回答)	
・友達や先生、家族に教える(21)	
・観察カードにかいて残す(9)	・図鑑を作る(6)
・他の生き物の世話に生かす(6)	

本学級の子どもたちの多くが、身近な生き物への関心や飼育活動への意欲が高い。しかし、昆虫やカエルなどの小さな生き物が苦手な子どもや、飼育活動への意欲が低い子どもが数名いる。また、多くの子どもが飼育を経験しているが、それらは、販売されている生き物が多く、自分で採取して飼育するという経験は少ない。そこで、生き物探しの中で、身近な小さな生き物にじっくりと触れ合ったり、知っていることを伝え合ったりする活動を設定し、生き物の面白さや不思議さを実感し、見つけた生き物を自分の手で飼育してみたいという思いや願いをもつことができるようにしていきたい。

必要な世話として、すみかを作る必要性に気付いている子どもが少ない。そこで、見つけた生き物や場所をタブレットで記録させ、生き物マップを作る際には、タブレットで記録した画像を基に生き物の種類と見つけた場所の特徴とを関係付けながら、マップにまとめる活動を設定していきたい。

また、困ったときは本や図鑑で調べる子どもが多く、自分なりに考えてみたり、情報交換したりする等の学び方が身に付いていない。そこで、同じ種類の生き物同士の子どもが一緒に活動できる場作りを行い、互いに協力しながら、必要な世話を考えたり行ったりできるようにしたい。

さらに、多くの子どもが気付いたことを友達や先生、家族に伝えたり、記録に残したりしたいと考えている。そこで、自分の生き物について身近な人に紹介する活動を設定する。

(4) 指導上の留意点

ア 「生きもののさがしをしよう」の活動では、『生き物を捕まえ自分で育てたい』という思いや願いを高めるために、生き物にじっくり関わることをできるよう十分な時間を確保する。生き物探しの際には、タブレットを用いて、見つけた生き物や見つけた場所を記録させ、活動後は、それを基に見つけた生き物を伝え合うことができるようにする。生き物の採取に生かせるようにするために、見つけた生き物をカードに記録させる。また、飼育活動でのすみか作りに生かせるように、見つけた場所の様子も書かせるようにする。そして、「見つけた生きものをマップにまとめよう」の活動で、自分たちの身の回りには色々な生き物があることや、生き物には適した環境があることに気付くことができるようにするために、生き物マップをつくり、そこから気付いたことを話し合う活動を設定する。

イ 「生きものをそだてよう」の活動では、これまでの学習や生活経験を生かしながら、自分なりに工夫して生き物の飼育活動に取り組むことができるようにするために、諸感覚を働かせながら

自分の生き物を観察し、自分と友達の生き物への関わり方を比べたり、飼い方に関する本等で調べたりしながら、よりよい飼育の仕方や関わり方に気付くようにする。そして、生き物の成長や特徴に気付かせるために、友達の生き物と比べて気付いたことを交流する活動を設定する。また、生命の大切さについて考えることができるように、道徳科とも関連を図る。

ウ 「生きものランドをひらこう」の活動では、自分の生き物を紹介したいという思いや願いを達成するために、1年生や幼稚園児を招待し、育てている生き物を紹介する活動を設定する。

エ 「たのしかったことをふりかえろう」の活動では、自分の関わり方のよさに気付かせるため、これまでの観察カードを振り返り、最後まで世話し育てることができた自分のよさや成長に気付かせ、今後もさらに生き物に親しみをもってかかわろうという気持ちをもてるようにする。

3 目 標

- (1) 生き物が生命をもち、成長していることに気付くことができ、生き物に心を寄せながら大切に採取したり飼ったりすることができる。また、生き物を育てることができた自分のよさや成長に気付くことができる。
- (2) これまでの飼育経験や調べ活動、友達との情報交換をもとに、生き物の立場に立って自分なりに工夫しながら生き物のすみか作りをしたり、必要な世話を考えたりすることができる。
- (3) 『生き物を見つけて観察したい』『生き物を元気に育てたい』『自分が育てている生き物を紹介したい』という思いや願いを基に、生き物に関わる活動に意欲的に取り組むことができる。

4 指導計画(全 16 時間)

活動する 楽しさ	活 動 名 (思いの連続と気付きの様相)	主 な 学 習 活 動 (時 間)	学習形態・環境構成 教師の具体的な働きかけ
○身の回りにいる生き物を探すことのできる楽しさ	・大学の田んぼにトンボがいたよ。 ・もっと見つけてみたいな。	前単元「夏のさんぽ」	・ 生き物を見付けたいという思いを高めるため、さんぽで見付けた生き物を発表させる。
○身の回りにはどんな生き物がいるのかが分かる楽しさ	生きものさがしをしよう (4時間)	さんぽと同じコースで生き物を探し、見付けた生き物を生き物カードにかく。(2)	・ 生き物をじっくりと見付けることができるように子どものペースで歩くようにする。
○見付けた生き物をマップにまとめる楽しさ	・草むらにはバッタがいるよ。 ・キャベツの近くにチョウがいたよ。 ・どんなところにどんな生きものがあるのかまとめてみたいな。	学校内で生き物を探し、見付けた生き物を生き物カードにかく。(2)	・ 散歩の活動を想起しながら、マップ作りに取り組むことができるようにするために、散歩中に撮影したタブレットの映像を基に見付けた生き物を振り返らせる。
○生き物のすみかとなえさの関係が分かる楽しさ	生きものマップをつくろう (1時間)	生き物マップを作り、気付いたことを話し合う。 ＜本時＞(1)	・ 見付けた場所や位置を把握することができるようにするために、散歩のコースを拡大した地図を準備し、地図の上を自由に移動してマップ作りできるようにする。
○自分で決めた生き物採取することができる楽しさ	・学校や大学には色々な生きものがあるんだな。 ・生きものによってすんでいる場所がちがうんだね。 ・えさとすみかに関係があるのかな。 ・つかまえて飼ってみたいな。	生き物マップを手がかりにして、自分が育てる生き物を決め、持ってくる物やどんなすみかを作るか等、飼育計画を立てる。(1)	・ 生き物に適したすみか作りをさせるために、生き物を採集した場所をじっくり観察させたり、その場所ですみか作りに必要な材料を集めさせたりする。
○自分の飼育している生き物の成長を見守る楽しさ	生きものをそだてよう (5時間)	生き物を捕まえに行き、その場ですみかを作る。(2)	・ 観察や世話の仕方を試行錯誤させるために、自分と友達の関わり方を比較させたり、同じ生き物を育てる子ども同士で情報交換させたりする。
○生き物にあった世話の仕方が分かる楽しさ	・バッタは草が好きだよ。いつも新しい草を入れてあげよう。 ・ダンゴムシの赤ちゃんが生まれたよ。かわいいなあ。 ・お相手さんにも紹介したいな。	生き物を観察し、必要なえさや世話などを話し合ったり、調べたりする。(2)	・ 困ったことを自分なりに解決させるために本や生き物の世話の仕方の紹介コーナーを作る。
○分かりやすく伝えるために工夫する楽しさ	生きものランドをひらこう (5時間)	自分の飼育している生き物について気付いたことを友達に紹介する。(1)	・ 自分の関わり方のよさに気付かせるために、「どうして、生き物を元気に育てることができたのかな。」と問いかける。
○友達に自分の飼育している生き物のことを知ってもらえる楽しさ	・ダンゴムシのすみかやえさを教えてあげたいな。 ・アメンボの秘密を伝えたいな。	1年生や幼稚園児に伝えたい内容や方法について考えたり、話し合ったりし、生き物ランドを開く準備をする。(2)	
○生き物の気持ちを考えて世話をすることができた自分に気付く楽しさ	たのしかったことをふりかえろう (1時間)	1年生や幼稚園児を招待し、生き物ランドを開き、自分の飼っている生き物のことを紹介する。(2)	
	・生き物にも命があるから、採った場所に逃がしてあげよう。 ・ちゃんとお世話が出来たよ。ぼく、がんばったな！	これまでの活動を観察カードや生き物ランドで使った資料をもとに振り返る。(1)	

5 本 時（5／16）

(1) 目 標

『生き物のすみかを知りたい』『生き物を捕まえにいきいたい』という思いや願いを基に、生き物マップ作りに進んで取り組み、友達との交流や生き物探しで得た情報を生かして生き物マップを作ったり、気付いたことを話し合ったりして、生き物と住む環境との関係に気付くことができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時の展開に当たっては、生き物と住む環境との関係を捉えさせることが大切である。そこで、生き物マップから気付いたことを交流させる中で、「どうして～～（見付けた生き物）は、その場所にいたのかな。」と問いかけ、生き物がその場所をすみかにしている理由を、生き物の生態と住んでいる環境の特徴とを関係付けながら自分なりに考えることができるようにする。

(3) 準 備

大型マップ（大学・学校）、生き物カード、のり、カラーシール、タブレット 等

(4) 展 開

学習能力	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
意欲をもつ	1 生き物探しの活動を振り返り、本時の学習について話し合う。 - 生き物を捕まえに行きたいな。 - どこに行けば捕まえられるかな。 - 生き物カードを使ってマップを作りたいな。 生きものマップをつくろう。	5	- 生き物のすみかを知って捕まえたいという意欲を高めるために、生き物探しで見付けた生き物の写真を提示する。 - 生き物探しの活動を想起しながら、マップ作りに取り組むことができるようにするために、子どもが歩き回ることができる大きさの地図を準備し、生き物カードを貼らせる。
	2 生き物マップ作りに取り組む。 - 学校の観察にトンボが飛んでいたから、池の所にトンボのカードを貼ろう。 - バッタを見付けたのは、どこだったかな。一緒に見付けた〇〇さんに聞いてみよう。 - ちょうちょをどこで見付けたか、タブレットの写真で思い出してみよう。	15	- 生きものカードを貼り付ける場所を考える手がかりにするために、見付けた場所で撮影したタブレットの画像を基に生き物探しを振り返らせる。 - 生き物によってすみかが異なることに気付くことができるようにするために、マップに貼り付けた生き物カードに生き物の種類ごとに異なる色のシールを貼り、気付いたことを交流させる。
活動する	3 マップを見て気付いたことを話し合う。 - 観察池にトンボがいたよ。 - 大学の田んぼや池にもいたよ。 - トンボは池や田んぼみたいな水があるところが好きなんだね。 - バッタは畑にいたんだね。 - 学校にはいなかったね。 - 畑の他に、大学の芝生にもいたよ。 - 学校には、畑や芝生みたいな草むらはないね。 - すみかに関係付けられた気付き - えさに関係付けられた気付き	20	個への対応 (1) 活動が進んでいる子ども 意欲的に取り組む姿を称賛すると共に、そのよさを周囲にも広げたり、さらに、活動を発展させるために、マップからどんなことが分かるか問いかけたりする。 (2) 活動に戸惑っている子ども 困っている原因を共に考え、友達と交流させたり教師がともに活動したりして、自ら活動できるように支援する。
	4 活動を振り返り、感じたことや思ったことを発表し、今後の活動への見通しをもつ。 - 身の回りにはたくさん生き物がいるんだな。 - 生き物は、自分にぴったりの場所で生きているんだね。 - 生き物を捕まえに行きたいな。ぴったりのすみかを作ってあげて、仲良しになりたいな。	5	- 生き物の生態とすみかの特徴を関係付けて考えることができるようにするために、「どうして～～（見付けた生き物）は、その場所にいたのかな。」と問いかける。 - 自分の取り組み方のよさに気付かせるために、生き物探しで得た情報や友達との交流を生かしながらマップを作ることができたことを価値付ける。
振り返る・生かす			

